

# 「美容室」の倒産 2025年度は38件、 過去最多に

「個人事業者」が65.8%、小規模事業者が大半

## 東海3県・「美容室」の倒産動向(2025年度)



本件照会先

猿渡 映一(調査担当)  
帝国データバンク  
名古屋支店 情報部  
052-561-4846(直通)

発表日

2026/04/20

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。  
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

## SUMMARY

東海3県で2025年度(2025年4月-2026年3月)に発生した「美容室」の倒産件数は38件。3年連続の増加で、年度ベースで過去最多となった。「個人事業者」が65.8%を占めるなど、小規模経営の美容室の倒産が多発した。競争激化やコスト高など経営環境は厳しく、今後も新陳代謝は進んでいくものとみられる。

※株式会社帝国データバンク名古屋支店は、東海3県(愛知・岐阜・三重)の「美容室」の倒産の発生状況について調査・分析を行った。

集計対象:負債1000万円以上・法的整理による倒産(2026年3月末時点における判明ベース)

## 「美容室」の倒産、2025年度は38件発生し過去最多

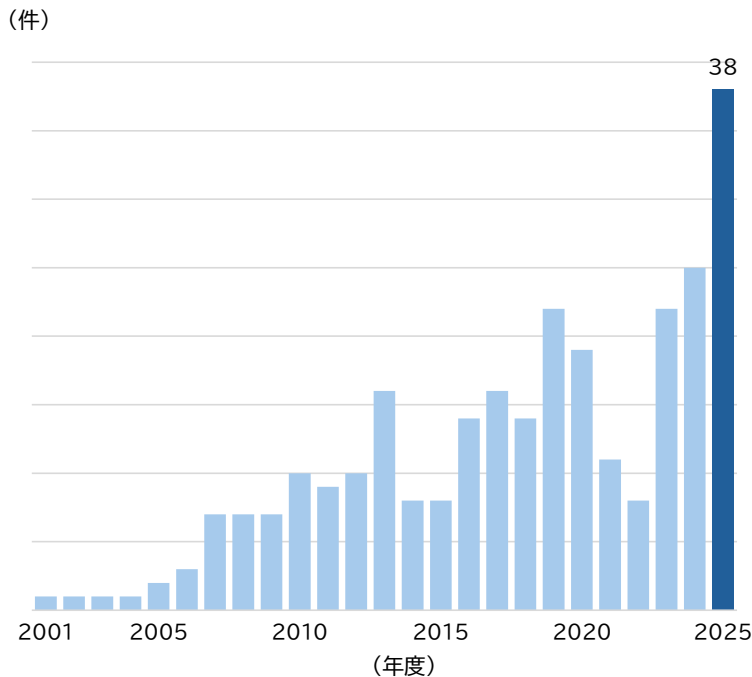
「美容室」の倒産(負債1000万円以上、法的整理)は、東海3県(愛知・岐阜・三重)で2025年度(2025年4月-2026年3月)に38件発生した。前年度の25件から52.0%増加し、2年連続で過去最多を更新した。「雇用調整助成金」など各種支援もあってコロナ禍でも倒産は抑制されていたものの、そうした効果が剥落してきたこともあり、2023年度以降3年連続で増加となった。

2025年度に発生した「美容室」倒産を資本金別で見ると、「個人事業者」が65.8%と最多となった。また負債額別でも、負債「1000万-5000万円未満」が86.8%と9割近くとなり、小規模事業者の倒産が大半を占めた。

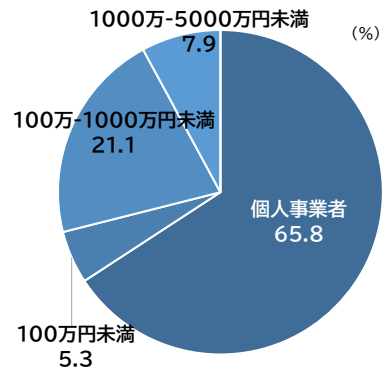
資金力のある大手チェーンや有名サロンと比較すると、多くの中小美容室ではスキルや知名度のあるスタイリストの採用が難しくなっているうえ、低賃金と長時間労働の改善を求める既存スタッフの流出により、予約の制限や客数の伸び悩みといった課題に直面している。さらに、シャンプーやカラー材など美容材料の値上がりに加え、電気代やテナント料、人件費など店舗運営コストの増加が著しい。比較的、初期投資を抑えた起業がしやすい反面、取り巻く経営環境は厳しく、一定程度の新陳代謝は今後も進んでいくと思われる。セルフケアも浸透するなか、顧客から選ばれるためには“ならではの体験”をいかに提供し、リピート客を獲得できるかがカギとなってくるだろう。

### 「美容室」倒産の動向

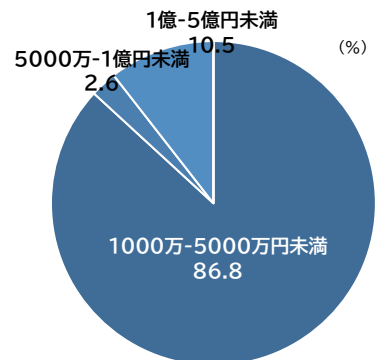
年度ごとの件数推移



資本金別の構成比(2025年度)



負債額別の構成比(2025年度)



※小数点以下第2位で四捨五入しているため合計が100にならない場合もある